

# 7-3

演題	住民と行政と SC のつながりを考察する。
副題	～ SC の仕事とは？～

顔の見える。 インタビュー
------------------

法人名	社会福祉法人 神奈川県社会福祉事業団
施設名	横須賀老人ホーム

発表者名 (職種)	金野 一晃 その他
共同発表者	
共同発表者	
共同発表者	
共同発表者	

都道府県	神奈川県
住所	横須賀市野比 5-5-6
TEL	046-848-1761
FAX	046-848-6866
メールアドレス	kitashitaura@kanagawa-swc.com
URL	

今回の発表施設 またはサービスの 概要	神奈川県横須賀市の包括支援センターに配置されている生活支援コーディネーターです。地域住民のニーズに合わせた福祉サービスの開発と育成、地域における新しいネットワークの構築等を業務としています。
---------------------------	---

## 研究の目的、PR ポイント

地域住民、行政の担当者に地域包括支援センターと生活支援コーディネーターに期待する事をインタビュー形式で話を伺う機会を作りました。インタビュー等から得られた課題を考察していくことで、生活支援コーディネーターの機能や役割、目的を確認し、さらに深め地域住民と密接な関係が作れる一つの機会になればと思います。

## 取り組んだ課題

コロナ禍により地域でのサロン活動等が縮小したことにより、地域住民の交流が減少しました。その為、地域包括支援センター、生活支援コーディネーターが地域に訪問する事が難しい状況にありました。徐々に地域での活動が増え、変化してきた中で包括支援センター、生活支援コーディネーターが地域と薄くなってしまった関係性をどのようにして再構築していくかが課題となり、取り組むことになりました。

## 具体的な取り組み

地域住民と行政の担当者に半構造化インタビュー形式で話を伺いました。そこから地域包括支援センター、生活支援コーディネーターに対する現状や今後、期待することについて整理を行い、地域のどの密接な関係作りをどのようにしていくことが必要なのか考察しました。

## 活動の成果と評価

地域の支え合いの代表と行政の担当者からは、今回の発表だけでは紹介しきれないほど沢山の貴重な意見を聴取することが出来ました。包括支援センター及び生活支援コーディネーターに対しては、「地域の近くに。高齢者が通える場所に。」とのワードが出ました。

## 今後の課題

地域包括支援センターに配置された生活支援コーディネーターとして、包括支援センターの機能や役割についての更なる周知の必要性、また生活支援コー

ディネーターの役割についての周知不足がインタビューから分かりました。同時に今回のインタビューでは、「支える側」のインタビューが主になっており、「支えられる側」のご意見を聞くことが出来ませんでした。

## 参考資料など

厚生労働省 地域包括ケアシステムの考え方横須賀市 地域運営協議会 北下浦地区 地図